

## はじめに

「ぜひ行ってみてください。こんな体験ができますよ」

「とっても面白いから。理科が好きになるかも」

自然の探究に役立つような所、理科的な考え方を伸ばしてくれそうな所、そんな所を奈良サイエンススポットと名づけて、奈良県教育振興会の会誌・やまとで紹介してきました。

その発端になったのは、「理科嫌いの子どもが増えてきた」というニュースでした。これまでは、見るもの、聴くもの、触れるもののすべてに興味を持ち、「不思議やなあ」と疑問を持ち、「これどうしてなの?」とはなはだ答えにくい質問をぶっつけてくるのが子どもだと思っていました。こんな子どもたちが「理科大好き」という子に育ち、その中から、先端的な研究に努める人が生まれ、我が国の科学技術を発展させていきます。そこまではいかななくても、科学に対する興味・関心をもち、科学的な考え方ができるようになり、先端的な研究に従事する人たちを応援できる大人になっていく。そんな世の中で、新しい発想で自然を探究し、原理原則を見出し、それを応用して新しいものを創造する、そんなサイクルの中で発展してきたのが我が国です。これ以上、理科がきれいな子どもが増えたら、これは大変なことになるぞ、と思いました。そんな気持ちで書き続けてきた奈良サイエンススポットです。

出会った先輩から「よう続けてるなあ。あんたのあのページ楽しみにしてんで。がんばりや」と声をかけてもらい、学校での授業や家庭教育学級、高齢者学級での話の中で取り上げたら、「先生、行ってきました」とノートにレポートを書いてきてくれたり、「早速、孫を連

れて出かけました。とても立派な施設にびっくりし、しっかり勉強できました。でも、がら空きでもったいないなあと思いました」と後日談を聞かせてもらったりして、書き続ける元気をいただきました。

斬新な発想で3枚羽の風力発電機を開発、インテル国際学生科学技術フェアで世界第2位の栄冠を自分のものにした高校生の「3は美しい数だと思います」という言葉に触発され、33編をまとめた「奈良を理科する 奈良で理科する」を上梓したのは平成21年12月のことでした。このとき各編に書き加えた「理科のワンポイント」は「いい勉強になりました」と喜んでいただき、アラセブの向学心に驚かされました。そして、「次はいつですか。やっぱり33編のときですか」というお言葉に少しばかりプレッシャーを感じました。

そして、まだまだたくさんある奈良サイエンススポットを訪ねる日が続きました。こうしたときには、所属する「コールピュアランド」などのコーラスグループで練習中のメロディーを口ずさみ、行く先々で水彩スケッチを楽しみ、自分で作ってきたおにぎりをほおぼり、ときには、見学地の周辺をウォーキングしました。私にとって、こうした原稿を書くための1



日は、小学校の教科でいえば、音楽、図画工作、家庭、体育の学習を役立たせ、そのそれぞれを楽しむひとときでした。

この書は「奈良を理科する 奈良で理科する」の続編で34話から

66 話までの 33 編（あとで追加した 1 編がありますから正確にいえば 34 編になりますが）を載せました。

子どもたちが、この本で紹介したスポットを訪ね歩いて、「やっぱり理科って面白い」と言ってくれること、自分の五感を使って探究し、何かを発見しようとするようになってくれること、たとえ科学の道には進まなくても、自然を愛し、科学の大切さを認めることのできる人間に育ってくれることを期待しています。

そして、私と同年代の方々、先輩であるの方々、そんな皆さんがいつまでも学び続け、元気な日々をお過ごしになられますように、と。

竹中 良行

表紙のデザインや座談会の子どもたちのイラストは生井裕子さんにお世話をかけました。本文に添えた絵や図は私の作で、前ページのスケッチは復元された黒塚古墳（前方後円墳）、スポット 65 の天理市立黒塚古墳資料館の西側にあります。